



Title	癌と人 第5号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 1977, 5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24184
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第5号 目 次

釜洞醇太郎先生を偲びて	理事 川 俣 順 一	1
大阪癌研究会昭和52年度事業目標	常任理事 田 口 鐵 男	3
がん—最近の話題—		
1. がんの動向—減ったガン・増えたガン—		
2. ヌードマウスと癌研究	藤 田 昌 英	8
3. 内視鏡検査による癌の診断（消化器がんを中心に）	高 見 元 敏	10
4. ガン患者と栄養	中 野 陽 典	12
5. 直腸癌	高 橋 明	14
6. C E A	大 嶋 一 徳	16
7. 癌の生化学的診断	軸 屋 紘 蔵	18
8. 食道癌	小 林 久	20
9. 乳 癌	早 田 敏	22
10. コンピュータートモグラフィー	上 田 進 久	25
財团法人大阪癌研究会寄附行為		27
大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿		30



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は阪大微研の川俣教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。